



上野総合市民病院だより

◆市民病院の感染対策について

感染防止対策室では、患者さんや院内で働くスタッフを感染症から守ること、医療資源の適正な使用、医療の質の改善などを目的に、院内や地域の感染に関する情報を把握、調査、発信し、さまざまな感染症への対応や予防を日々実践しています。

感染症には、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染症、B型肝炎、はしか、水疱瘡などの既存の感染症や、最近発見された新しい感染症（新興感染症）があります。さまざまな感染症に対応するために、感染対策チーム（ICT*）を組織し、職員対象の感染対策研修や、院内環境の巡回点検（ラウンド）の実施、感染症罹患者の情報共有やその対応を実施しています。

また、インフルエンザなど季節性の感染症が、例年より早い時期に流行する場合もあるため、情報収集に努め、患者さんに安心して入院していただけるよう、感染対策を行っています。

感染対策は一人ではできません。感染対策にはスタッフはもちろん、市民病院を利用される皆さんに協力していただくことにより、安心して利用できる環境を提供していきます。

* ICT…Infection Control Team の略称
（感染防止対策室 足立 直輝）



医療廃棄物の処理を確認している様子

明日に向かって～差別をなくしていくために～

安全な水を安定的に ー水道施設課ー

国連が採択した17の持続可能な開発目標「SDGs」の中に、「安全な水とトイレを世界中に」があります。その目標のポイントとされているのが「すべての人が安全な水を衛生的な環境で使えるようにする」「限りある水資源を将来にわたって使うための取り組みを進める」の2点です。

今回はその中でも、「安全な水」である水道についてお話をしたいと思います。SDGsでは、水道のパイプで管理されている水を「安全な水」としています。

国内全域では、蛇口をひねると安全な水道水が出てきます。これは日本の水道システムが「安全な水」を供給するために、施設構造や部材など、多岐にわたる厳格な基準を設けているためです。さらに、出来上がった水道水にも、51項目の水質基準があり、定期的に検査し安全確認がされています。

このようにして、皆さんの元へ「安全な水」を安定して使えるように供給していますが、近年では「安全な水」を作るということに対して、問題も発生しています。特に影響が大きいものは、地球温暖化による集中豪雨がもたらす洪水や、渇水の多発です。渇水はもちろん、洪水による濁水から「安全な水」を作ることも大変な困難を伴います。悪化した自然環境の中でも、皆さんに水を安定して届けられるよう努力を続けていますが、今後さらに温暖化などが進行すれば、水不足や浄水システムが追い付かず断水ということにもなりかねません。

私たちのこどもや孫の世代、その先まで安全な水を安定的に使い続けていくために何ができるか、また、水をムダにしないために何ができるか、私たちが普段当たり前に使っている水について、この機会に改めて考えてみませんか。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀の歴史余話 45

藤堂豊前の楽焼

幕末も近い江戸時代の後期、上野城の二之丸（現在の旧桃青中学校周辺）に陶芸のための窯が築かれました。窯を築いたのは、二之丸に屋敷を構えていた藤堂藩の重臣、藤堂豊前広旧です。

文政2（1819）年に父の家督を継ぎ、3500石取りの番頭*となった広旧は、武士として剣術や槍術に優れていただけではありませんでした。弘化4（1847）年の孝明天皇即位にあたっては、朝廷への藤堂藩の使者を務め、安政伊賀上野地震の際には、家臣の先頭に立って復興に尽力するなど有能な藩士でした。

広旧が多忙な藩務の余暇に楽しんだのが茶道と作陶でした。広旧は「松風庵一志」と称して自邸に茶室と窯を設け、楽焼を製作します。

楽焼は、ロクロを使わずに手とヘラで成形して低い温度で焼成する焼きものですが、広旧の作品は武士の余技の域を超えると評価され、「伊賀楽」「太夫焼」などとも呼ばれています。

令和6年、藤堂豊前家の子孫が大切に保管されて

きた広旧の作品や、同家に伝わる古文書・甲冑などが市に寄贈されました。この貴重な作品と歴史資料の一部を展示しますので、ぜひご覧ください。

【と き】 1月8日(木)～2月15日(日)
午前10時～午後4時30分

※休館日 毎週火曜日

【ところ】 伊賀市 ミュージアム 青山讃頌舎

【観覧料】 大人300円 高校生以下無料

*番頭…藩における軍事編制において軍団を束ねる指揮官

文化財課歴史資料係 ☎/FAX 41-2271



▲藤堂豊前広旧の楽焼（佐々木脩氏旧蔵）
〔左：銘「曉」 右：銘「二の丸」〕



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト（製品）」、「プロフェッショナル（専門家）」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。



株式会社

ナベル

株式会社ナベルは、1972年にカメラなどの光学機器用蛇腹専門メーカーとして創業しました。時代の変遷と共に、ジャバラの定義を「必要な時に伸び、不要な時に縮むもの」「機能的なカバー」などの広義の捉え方に変更し、さまざまなジャバラの製造・販売を行っています。

主に、工作機械の主導軸などの切粉、クーラントから保護するカバーや、医療分野でMRI・CTの安全性を確保するために当社のジャバラを採用いただいています。また、近年では省力化ニーズの高まりにより、工場へのロボット導入が増加していることから、ロボットの長寿命化を支援する産業用ロボットや協働ロボット向けの専用カバーも製造・販売しています。

常にエンドユーザーの立場に立ち、時代のニーズに合ったものづくりを考える陽転思考にあふれた集団として、世界一のジャバラメーカーをめざしています。

◆若手社員のコメント

高校卒業後、地元を離れて暮らしていましたが、帰省の度に「おかえり」と迎えてくれる人の温かさや、自然の穏やかさを改めて感じたため、社会人経験を経てUターン就職を選びました。

当社には、人柄の良い人が多く、職場全体が温かい雰囲気になっています。また、上司が資格の勉強や読書をしている姿に刺激を受けています。穏やかで、前向きに成長している職場だと感じています。（営業技術部 北寺菜奈）



協働用 TM ロボット
およびロボットカバー



入社5年目までの若手社員

◆会社概要

【設立】 1972年10月

【所在地】 伊賀市ゆめが丘7丁目2-3

【従業員】 全社198名

【事業概要】 ジャバラの製造・販売並びにこれに関わる一切の業務

【拠点】 三重県（本社）、山口県、アメリカ、中国、韓国

【連絡先】 ☎ 21-5060

<https://www.bellows.co.jp/>



問 商工労働課 企業誘致推進室 ☎ 22-9727 FAX 22-9695